

ヨハネの黙示録 第2章 10節

「あなたが受けようとしている苦しみを恐れてはいけない。見よ。悪魔はあなたがたをためすために、あなたがたのうちのある人たちを牢に投げ入れようとしている。あなたがたは十日の間苦しみを受ける。死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう。」

迫る苦しみへの恐れは、苦しみの中にある以上に恐れが増幅する。どのような苦しみ、どれほどの苦しみ、どれだけの間の苦しみにいつ直面するのかわからない恐れである。ある人たちが投獄されるとある。ある人とは自分のことか、家族か、友か、知人か誰が該当するのかわからない。これも未知であるゆえ恐怖となる。

そして、具体的に苦しみの期間がある。苦しみがあ、苦しむ者がいて、それが十日間に及ぶ。わからないことだらけの苦しみに期間限定は救いである。それでも、死に至るまで忠実でありなさい、とある。十日間の苦しみの果て死と向き合うことになる。期間限定ではあるが、苦しみが死で終わる。それでは何のための苦しみなのか問う。

問う者に応える。死に至るまで忠実でありなさい。死に直面しても忠実でありなさい。死に至るまで、とは死の武器をかざし恐怖を煽る悪魔に直面しても主に忠実であれ。いのちの君が冠を与える。

2023年8月19日